

May 2023

ようこそ、持続的共発展教育研究  
センターの教育プログラムへ！  
-新しい学理、教育、そして人材を生み出す-  
Welcome to Education Program by  
“Education and Research Center for  
Sustainable Co-Development” (SusCoDe)  
-Generation of new scientific principle,  
education and human resources-

持続的共発展

検索 

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

# 「科」の「学」だけでは 環境問題に対応できない！

**Miscellany of detailed academic disciplines  
cannot solve environmental issues.**

- 環境問題 = 自分たちの周辺の問題(の総合)

The environment is a series of problems around ourselves.

- ✓ 様々な事象が分野横断で複雑に結びついている
- ✓ 実験室と違って、都合のよい仮定は設定できない

- 細分化された個別学問分野では視野が狭すぎる

Detailed discipline's perspective is narrow.

- ✓ 固有の視点から鋭利な分析を提供できる場合も
- ✓ しかし的外れな視点になることも。分野間相反も

- 大学に閉じこもってではそれを実感できない

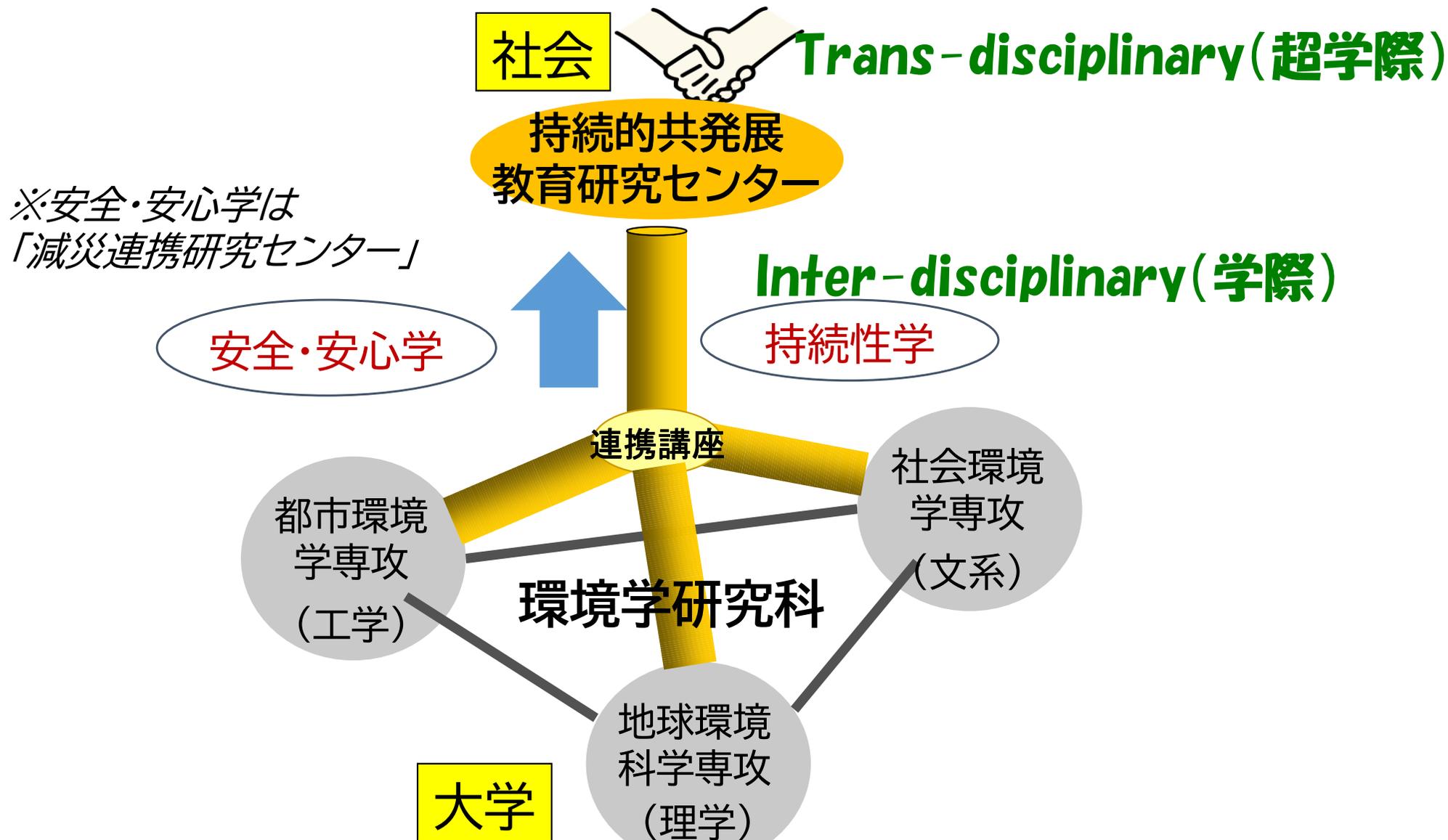
We cannot feel it inside university.

- ✓ そのほうが論文は書けるかもしれないが、社会と乖離

# 持続的共発展教育研究センターの位置づけ

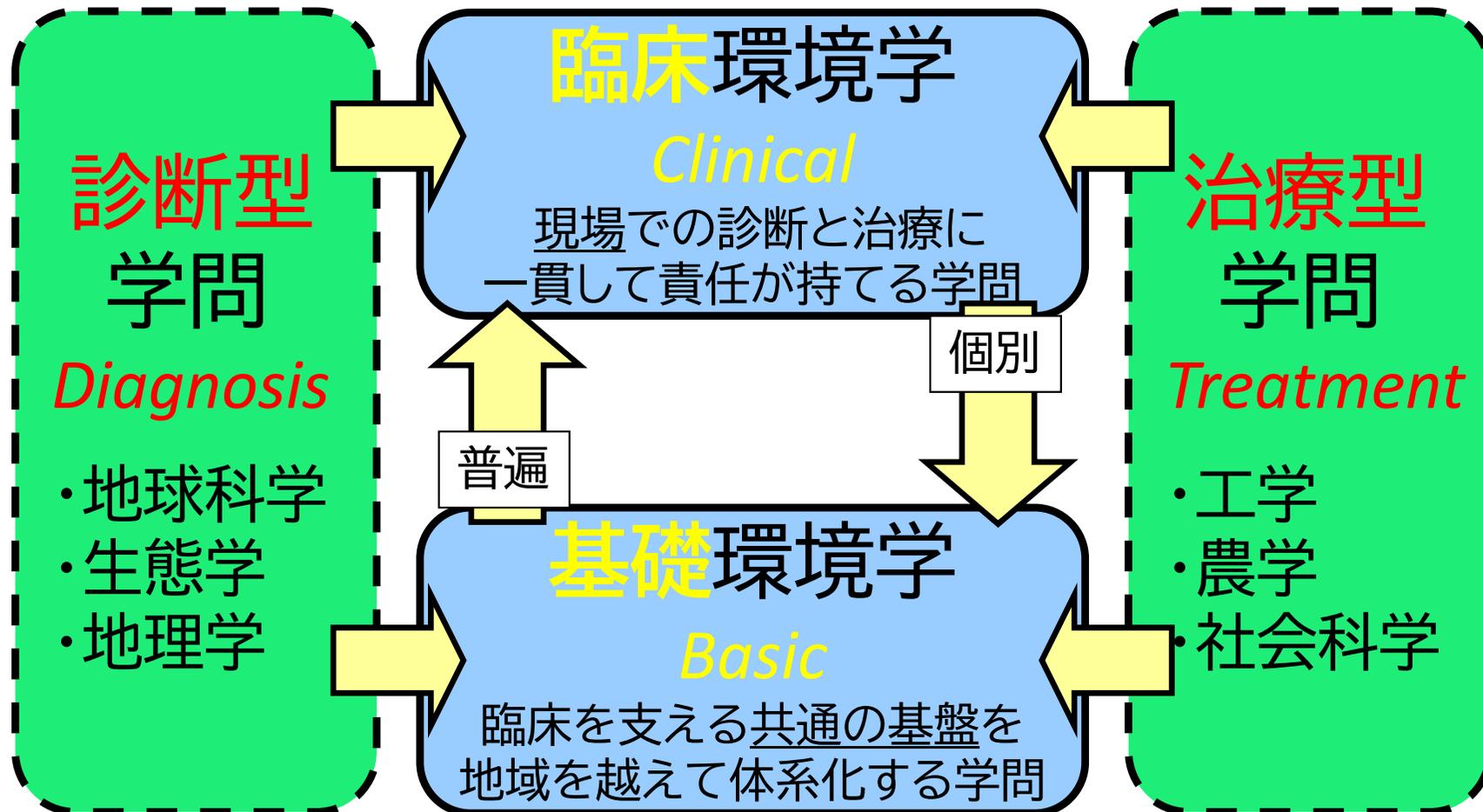
- From triangle to tetrapod -

## Positioning of "Education and Research Center for Sustainable Co-Development" (SusCoDe)



# 臨床環境学®と基礎環境学

## Clinical & Basic Environmental Studies



※「臨床環境学®」は、名古屋大学の登録商標です。

博士後期課程の皆さんへ

# 統合環境学 特別リコースで 学んでみませんか？

興味に  
参加してみよう！



地域・環境問題に  
取り組んでみませんか？



# 統合環境学特別コース

## Integrated Environmental Studies Course

- ◎博士**後期課程対象**。持続的共発展教育研究センターが提供
  - ◎異分野の学生・教員とともに、環境問題について多角的に考えることができる
  - ◎どの専攻に所属していても参加可能(各授業はコース参加するか否かにかかわらずだれでも、さらに他研究科からも履修できる)
  - ◎入学時ガイダンス後に、コース参加を決めることができる
- ※通常、博士後期課程は指導教員を先に決めて受験するが、もともと本コースを志望する方はそれが明確でない可能性もあるため、**事前に連絡**いただければ、**指導体制(分野横断型)**を相談して**決める**ことができる

# 基礎・臨床環境学に関する授業：後期課程

## Doctor course program of Basic and Clinical Environmental Studies (ALL: Japanese and English)

### 統合環境学特別コース *Integrated Environmental Studies Course*

- On-site Research Training (ORT): 臨床環境学研修1・2 (2 credits)
- On-campus Seminar: 基礎環境学講究1・2 (2 credits)

※臨床環境学研修1・基礎環境学講究1の単位を修得すると、**特別コース修了証(certificate)**が得られる

※これらの授業は**博士(環境学)の単位取得要件** <他専攻科目の単位取得が必要> **に使える**

※RA募集あり



# 「俯瞰力」と「現場力」

Skill for “Overlooking” & “Acting real fields?”

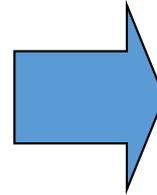
- 基礎・『俯瞰力』: Think globally
  - 様々な立場や価値観があることを理解し、旺盛な好奇心を持てる力
  - 幅広い視野を持って状況を把握できる力
- 臨床・『現場力』: Act locally
  - どこに放り出されても対応できる分析力とコミュニケーション力
  - 状況を把握し伝える力(診断)
  - 調査や意見交換を通じて適切な処置を提案し実施できる力(処方・治療)

# ORTの流れ：「俯瞰力」「現場力」をつける！

Flow of ORT to improve the skill for  
“Overlooking” & “Acting real fields.”

1.事前検討<大学>  
Pre-discussion (univ.)

異分野・多国籍  
メンバーで検討

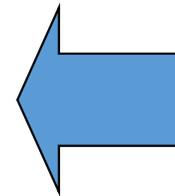


2.全員調査<現地>  
Research by all members

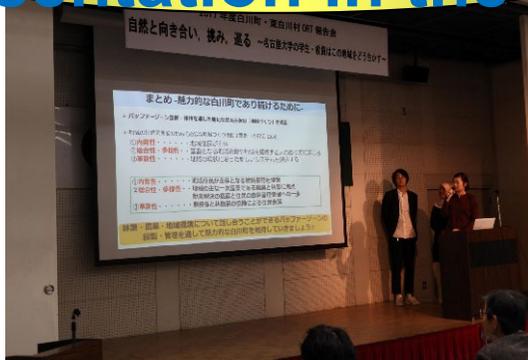


3.個別調査<現地>  
Research by each group

- ・ チーム・テーマを決定
- ・ 現場で調査・分析を企画・実施



4.発表<現地>  
Presentation in the field



「診断」「処方」を示す  
Diagnosis & Prescription

「目からウロコ」 See the light!

**Let us begin the journey of clinical environmental studies!**

# 2021・22年度のフィールド：東浦町(愛知県)

ORT Field in FY2021 and 2022: Higashiura town (Aichi pref.)



# 最終報告会 (2023年3月22日開催)

## Final report conference in Higashiura town



2022年度 東浦町ORT報告会  
東浦自然環境学習の森の竹林管理を考える  
～明るい竹林を維持するために～

日時：3月22日（水）14:00～15:40（開場13:50）

会場：東浦町 勤労福祉会館 2階会議室 1

入場無料・事前申込制



申込みフォームはこちら

### プログラム

14:00	開会・開催挨拶	神谷 明彦（東浦町長） 山岡 耕春（名古屋大学 環境学研究科長）
14:10	「臨床環境学」研修（ORT: On-site Research Training）について	宮坂 隆文（名古屋大学 環境学研究科 講師）
14:25	「明るい竹林形成のための持続可能な維持管理方法 ～東浦自然環境学習の森を例に～」	博士課程学生：勝浦 柊、紀平 真理子、佐藤 則子
14:55	意見交換会	進行：加藤 博和（名古屋大学 環境学研究科 教授）
15:30	閉会・閉会挨拶	西澤 泰彦（名古屋大学 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長）



主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター

協力：東浦町

問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局（張）TEL: 052-747-6547



**Let us begin the journey of clinical environmental studies!**

# 今年度(2023)のフィールド: 鳥羽市(三重県)

ORT Field in FY2023: TOBA city (Mie pref.)



# ORTの日程（予定） Schedule

月	行事	内容
4月下旬	立ち上げ会合	概要説明、グループ分け
5月	準備会合	各個人の興味に応じた対象地域に関する発表
6月	定例打合せ	現地見学会の準備
6～7月 (宿泊)	現地見学会 (スタディツアー)	現地を訪問し調査・ヒアリング
6～12月 (毎月 1回程度)	個別調査・分析	各グループで個別に実施
	定例打合せ	各グループの進捗状況確認
12～3月 (未定)	現地報告会	地域の皆様に研究成果を見ていただくとともに議論し、今後の調査研究へつなげる
2～3月	最終報告書作成	報告書として形に残し、地域にも手渡す

# 基礎・臨床環境学に関する授業：前期課程

## Master course program of Basic and Clinical Environmental Studies (ALL: Japanese and English)

持続可能な地域づくり実践セミナー 4 credits 通年  
(*Practical Seminar on Developing Sustainable Local Communities*)



- 受講生の間で議論して対象地域を選び、フィールドワークを実施(春学期/秋学期で1回ずつ計2回、日帰りもしくは1泊2日で)
- 調査結果は教室で報告するだけでなく、報告書を作成して現地の皆さんにも見ってもらう

# 環境学研究科 研究科内研究インターンシップ 参加学生募集!

環境学研究科では文工理のさまざまな研究室が多様な研究プロジェクトを行っています。  
他研究室・他専攻の研究プロジェクトを体験できるのがこのインターンシップです。

1つの分野を極めればOKという時代ではありません。異分野の研究にふれることは将来のキャリアに必ず役立ちます。

研究科内の20名あまりの教員が、自分の研究プロジェクトへの参加者を募集しています。指導教員の承認を得た上で、他研究室での研究活動を体験します。30時間の従事で共発展センター長名の履修証明書を発行します。90時間の従事で「インターンシップ」単位として認められます。ふるってご参加ください。

研究テーマの例 他にも多数あります

受け入れ教員 研究テーマ 手続き方法 →  
研究科内研究インターンシップ Web サイト



- 地球の変動 / 地震波速度構造の時間変化に関する研究
- 震災復興 / 東日本大震災後の復興プロセス
- 河川の生態 / 河川水生生物の採取と同定・分類:環境変動に対応した水生生物多様性評価
- 森林の生態 / 地中レーダーを用いた森林の根系評価
- 木材利用 / 木材資源の地産地消を推進する仕掛けづくり
- 都市計画 / 21世紀にふさわしい環境配慮型の都市・地域計画のためのフィールドサーベイ
- 公共交通 / 地域公共交通計画づくりに関わる現地調査やデータ集計・解析によるニーズ調査
- 建築環境 / 全館空調式住宅の住まい方



問い合わせ

internship@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp

# 研究科内 研究インターンシップ

- 様々な分野の研究室がある環境学研究科の他研究室の研究プロジェクトに一時参加することが可能
- 所定の時間従事すれば、履修証明書や単位が得られる

※主指導教員の許可が必要

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/post.html>

「環境学研究科 インターン」  
で検索

# 6 研究科連携ESDプログラム

Nagoya University Education for Sustainable Development Program by 6 Graduate Schools

<http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/>

The logo features a blue background with various white icons representing sustainability (e.g., solar panels, bicycles, wind turbines, hands holding a globe, leaves, gears, a recycling symbol, a smartphone, a lightbulb, a factory, a globe, a hand holding a plant, a butterfly, a cube, a pencil, a gear, a factory, a globe, a hand holding a plant, a butterfly). The text is arranged as follows:

2023年度  
名古屋大学大学院  
6 研究科 連 携

# ESD

プログラム Nagoya University  
Education for Sustainable Development Program

6 研究科 連 携  
Education for  
Sustainable  
Development  
プログラム

環境学  
国際開発  
生命農学  
工学  
経済学  
人文学

SD(持続可能な開発)に関する、6研究科の約60の授業科目  
→ 他研究科の授業も受講でき、単位取得可能

# 環境学研究科ESDプログラム

## 授業科目とSDGsとの関連

国連「持続可能な開発目標」  
(SDGs: Sustainable Development Goals)

あらゆる貧困を撲滅し、誰一人取り残すことなく持続可能な社会へ変革するための2030年にむけた17のゴール。  
2015年に国連が採択。



2023年度名古屋大学6研究科連携ESDプログラム

AY2023 Nagoya University ESD Consortium Program with 6 Graduate Schools

環境学研究科 (Graduate School of Environmental Studies)

SDGs (持続可能な開発目標) との関連

授業科目	Course Title	授業形態	対象年次	学期	授業担当教員	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
環境学フィールドセミナー	Field Seminar on Environmental Studies	講義	M 1, 2	春学期	西澤 泰彦 教授 (代表)																		
生態学概論	Ecology	講義	M 1, 2	秋学期	杉谷 健一郎 教授、松田 薫 教授、磯藤 祐介 准教授																		
持続可能な開発入門	Introduction for Sustainable Development	講義	M 1, 2	秋学期	高野 雅夫 教授、加藤 博和 教授、小松 尚 教授																		
持続可能性と環境学	Sustainability and Environmental Studies	講義	M 1, 2	秋学期	ジシエンコ アナトーリ 准教授、西川 真樹 教授、井筒 雅哉 准教授ほか																		
水の環境学	Studies on Water Environment	講義	M 1, 2	春学期	河村 朋行 准教授 (代表)																		
資源・エネルギーの環境学	Environmental Studies on Natural Resources and Energy	講義	M 1, 2	春学期	高野 雅夫 教授																		
持続可能な地づくり実践セミナー	Practical Seminar on Developing Sustainable Local Communities	演習	M 1, 2	通年	高野 雅夫 教授																		
総合防災論1A (自然編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 1A: Understanding Natural Hazard	講義	M 1, 2	春学期	鈴木 康弘 教授 (代表)																		
総合防災論1B (社会編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 1B: Social Science Approaches	講義	M 1, 2	秋学期	森嶋 結 教授、柴井 研二 准教授																		
総合防災論2 (減災編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 2: Methodology for Disaster Mitigation	講義	M 1, 2	秋学期	長江 拓也 准教授 (代表)																		
総合防災論3A (実践編1)	Science and Technology for Disaster Mitigation 3A: Practical Actions for Disaster Mitigation (1)	講義	M 1, 2	春学期	菊池 美 教授																		
総合防災論3B (実践編2)	Science and Technology for Disaster Mitigation 3B: Practical Actions for Disaster Mitigation (2)	講義	M 1, 2	秋学期	菊池 美 教授																		
地質学概論	Introduction to Geology	講義	M 1	春学期	Marc Andre Humbert 准教授																		
サステナブル都市学	Eco Carbon Cities Studies	講義	M 1	春学期	谷川 真樹 教授 (代表)																		
環境都市システム論	Environmental Urban Systems	講義	M 1, 2	秋学期	井筒 雅哉 准教授																		
環境コミュニケーション	English Communication in Environmental Issues	講義	M 1, 2	春学期	井筒 雅哉 准教授、Chun Sohyun 講師																		
環境学英語特別講義1	Special Lecture on Environmental Studies (English language) 1	講義	M 1, 2	随時	教務委員会																		
環境学英語特別講義2	Special Lecture on Environmental Studies (English language) 2	講義	M 1, 2	随時	教務委員会																		
地球惑星科学概論	Introduction to Earth and Planetary Sciences	講義	M 1, 2	秋学期	城野 健一 准教授 (代表)																		
気候(化)論	Global and Urban Warnings	講義	M 1, 2	春学期	中塚 正 教授 (代表)																		
住まいと環境	Housing and Environment	講義	M 1, 2	秋学期	青柳 雅彦 准教授 (代表)																		
環境政策論	Environmental Policies and Strategies	講義	M 1, 2	秋学期																			
環境の倫理	Environmental Ethics	講義	M 1, 2	春学期	丸山 康司 教授																		
基礎環境学講義1	Classes and Research Instruction in Basic Environmental Studies I	演習	D 1, 2	随時	高野 雅夫 教授、加藤 博和 教授、張 華 講師																		
基礎環境学講義2	Classes and Research Instruction in Basic Environmental Studies II	演習	D 2	随時	高野 雅夫 教授、加藤 博和 教授、張 華 講師																		
臨床環境学研修1	On-site Research Training in Clinical Environmental Studies I	実習	D 1, 2	随時	加藤 博和 教授、宇野 雅弘 准教授、河村 朋行 准教授、高野 雅夫 教授、張 華 講師、高田 隆文 助教																		
臨床環境学研修2	On-site Research Training in Clinical Environmental Studies II	実習	D 2	随時	加藤 博和 教授、宇野 雅弘 准教授、河村 朋行 准教授、高野 雅夫 教授、張 華 講師、高田 隆文 助教																		
国際環境法	International Environmental Law	講義	M 1, 2	春学期	内杉 啓子 教授																		
環境法	Environmental Law	講義	M 1, 2	春学期	西尾 秀彦 准教授																		
環境政治	Environmental Politics	講義	M 1, 2	春学期	野村 康 教授																		
環境政治セミナーA	Environmental Politics Seminar A	演習	M 1, 2	春学期	野村 康 教授																		

関連を示す表(右)を  
Webサイトで公開

[http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/pdf/sdgs/ESD2023\\_SDGs.pdf](http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/pdf/sdgs/ESD2023_SDGs.pdf)

# 名古屋大学大学院 6 研究科連携ESDプログラムの体系

## The ESD Consortium Program Mechanism

価値と知識の共有化  
Shared Values / Knowledge

解決策を見つけ出す手腕と技能の修得  
Obtaining Skills & Competencies for  
Solution

環境、経済、社会、文化の多様性の相互依存  
Diversity & Inter-Dependency of the  
Environment, Economy,  
Society & Culture

知識 Knowledge

Climate Change, Biodiversity, Water/Energy  
Resources, Population, Health, Disaster  
Management, Vulnerability/ Instability

原則 Principle

Sustainable Living, Democracy, Sustainable  
Production & Consumption, Equality & Peace  
in Society

価値 Value

Justice, Equality, Tolerance, Sufficiency &  
Responsibility

制度的イノベーション  
Institutional Innovation

+

地域知・伝統知・土着知  
Local, Traditional & Indigenous  
Knowledge

+

技術的イノベーション  
Technological Innovation

# 共発展センターの教育プログラムで何が得られるか？

What do you get by joining our program?

*Exiting! Interesting! and Cool!*

- コミュニケーションが得意になる(対人、対自然)
- 異分野・一般社会での知り合いが増える
- 視野が広がる
- 日本のことがわかる

## すなわち「俯瞰力」と「現場力」

- 「ただの博士・修士」は上記のスキルは不要  
「何か新しいことをやらかす博士・修士」になる
- 「専門の研究者」以外のキャリアパスを拓く  
究極の狙いどころは「起業家」「政治家」の輩出  
つまり、世の中をいい方向に変える人！  
いま、世界がそういう人を求めています！

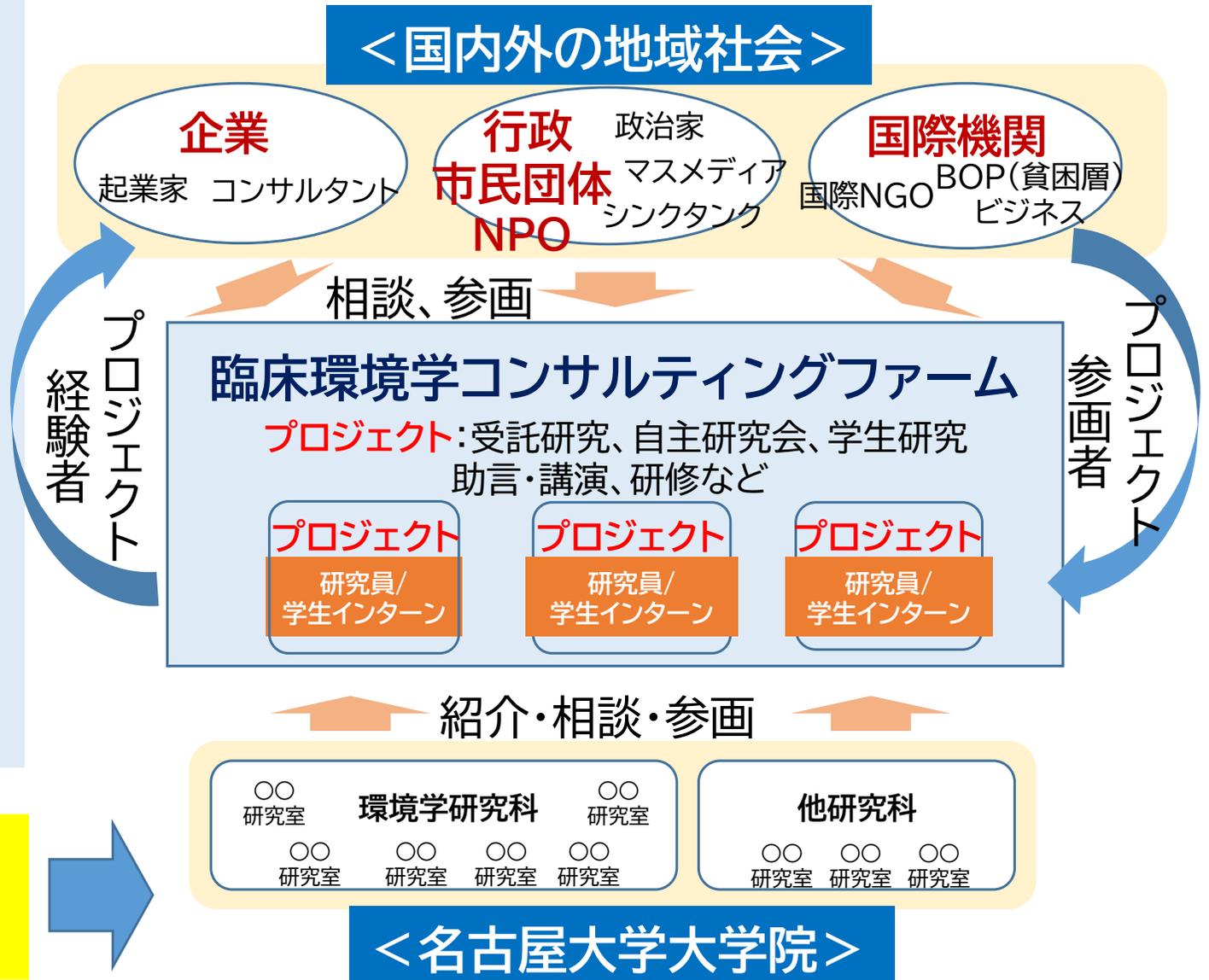
# 臨床環境学®コンサルティングファーム

-社会と大学研究者との「お見合い」の場-

## Consulting Firm for Clinical Environmental Studies

- 企業・行政、市民などの皆様の**ワンストップ相談窓口**！
- 地域と大学の共同研究・**協力活動を創り出す場**！
- 新たな環境人材の育成と**キャリア開発**の機会！

そのために  
大学内の横連携！



持続的共発展

検索

求む！ 地球と地域を救おうとする  
高い志と強い意志をもった学生

We expect the participation of students with  
high motivation and strong will.  
Let's tackle with us!

# 共に創る 持続可能な社会

途上国と先進国 自然と人間 農山漁村と都市 大学と社会



<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

質問・相談は、こちらへどうぞ。

If you have any questions or consultation, please contact us.

持続的共発展教育研究センター（加藤・張）

Education and Research Center for Sustainable Co-Development

(H.Kato, X.Zhang)

TEL: 052-747-6547

[cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp](mailto:cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp)